



大坪 稔房

株式会社日立製作所

情報・通信システム社プロジェクトマネジメント統括推進本部

技師

エンタプライズ系ソフトウェア開発における形式手法の活用

プロフィール

1994年、株式会社日立製作所に入社。以来、オブジェクト指向やSOAなどを用いたシステム設計手順の開発・コンサルティングに従事。

2010年より、ディペンダブル・ソフトウェア・フォーラムの形式手法適用実証WGに参加し形式手法活用ガイドの作成に従事。また2011年にはIPAの形式手法適用実証実験に参加し、実験の実作業を担当。

講演概要

現代社会において情報システムの重要性が高まるのに従い、品質や信頼性が高いソフトウェアを開発するための手法が求められています。そのような中で、自動車や家電等のハードウェアに組み込まれる組込み系ソフトウェアなどでは、形式手法を適用した開発を推奨する動きがあり、形式手法に注目が集まっています。一方で、企業活動や社会インフラを支えるエンタプライズ系システムにおけるソフトウェア開発では、形式手法の適用事例が少なく、その効果や導入ノウハウが一般には公開されていませんでした。弊社を含む国内IT企業6社と国立情報学研究所が参加したディペンダブル・ソフトウェア・フォーラムでは、形式手法をエンタプライズ系ソフトウェア開発の工程成果物に対する欠陥除去手段として捉え、その適用法や導入ノウハウを『形式手法適用ガイド』として公開しました

今回はその成果に基づき、エンタプライズ系ソフトウェア開発の外部設計書に対して形式手法を適用して欠陥を除去するプロセスを、図書館システムを題材にして、形式手法の一つであるEvent-Bを用いたデモを交えてご紹介します。